絵入

えりの吐

之

特別
〜13
4382
3

若呂里狂哥咄之升三

○鳴滝ハ古瀬の里の一条の御室の西十町ばかりに
ありし西行法師のよみしに

志らまへかへにせわ瀬もそ八瀬りなる瀬の川
とゞろくおとをたきのひゞく

志らまそへみふえへたれ椋るひとしかる瀬の川

○砥石の山ハ鳴滝の西ありありあくる也砥と御むねなるて
ある雄なりつで来ある山なり

ある雄たゝ砥石の山のかゝしきをのゝ刃をとぎくれそなく

廣澤の池もかゝとをられてこゝろへくだきくらふ

ひろ沢の池のをしある舩子と砥石の山がとちみづくらなむ

さ廣澤の池ハ月の名所なりし世の名所なれ人ハ名月み

うせつきもりみはるかぎりひろくおくとりとしかうとしかつて
つき酒のこすかうしかさ池の月とかうしかは池の面の雪
居て東の山のこなたにかすむ月のあるこなたとかたこそふ
ひろ沢の秋の夕日海と位形の秋の千
ひかり色の人ハ汀よ新たてて月のこなたに廣沢の
秋の中はよ光
廣沢の池ふかき春の霞ゆえ人ハ底のどこを尋ぬるや
底沢の東の方海ぐるさよ雪とれ池とそむこ底ふく波
立てとこまぐく池よハ立ぬ
しこ雪よ行せみよ浮てたゞ
てまぐに寝こ水の中よ屋ろ
出家雅こうとて雪れ

○桂尾ハ律院ノ寺ノ大納言飛鳥井ノ殿
まゝそを紙ハ[illegible]花さく桂尾山ハ[illegible]
わまさの法皇[illegible]ノ寺の春
とゝろやうふみして戒[illegible]と彼らゞと西ろ者ふ突
吉庭法羅夷月ゞの布薩とゝろを突さるこ
とぞう
月の中ハ戒を物聲核ハ[illegible]仏の桂とまれのかれる
大深ハ大学寺ノ[illegible]ノ[illegible]て樹木ノ[illegible]
後成所の[illegible]
大深ノ法の[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]月
[illegible]
借銭とわゞ貧だをよ[illegible]

○夏ハ祇ノ時[illegible]ハ[illegible]
[illegible]大将[illegible]
[illegible]ノ[illegible]
[illegible]武蔵国ノ住人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○楊梅の小路の西なるハ六条坊門の北洞院とこれあ
むかし源九郎判官義経のおハしけるところ也土佐房が夜
討よりもおしよせ来りしを其古跡なり弁慶の
ねらひてすぐちかゝりて地をかためたるのおさへしを
とハ孫たくへりしとおもへ弁慶の松を取てよみ
其力をもぬかりしかの松のもとにて兵をさ八乱れて見ゆる楽なら
○黒谷法然上人ハ年久しくありて今一たび南無と念
て念仏の稲荷の庵へ行むかひ給ひて布施
根本の雲衣の袖ぎぬをかし給ひて何かかし釈
房ハまことに見えしき法ハ名のかしきに行しめと
人うらみかし
南無八坂殿今八坂のうた縁なしまゝ深の袖

南無阿弥陀仏とかゝるといふ事をよく心得て一行
とかきていたしたりける
○此ところの名をひとしへもあらで世をいとひて東山に庵を
むすび念仏してありけるひとりの弟子なる
藤とてありけるか此かたに仏をもむかへて
とかりてまた安心をしらざるや覚へ入て此源に
だ念仏の安心を尋ねしかバ上人は答へ玉ふ
かの念仏をすれバ極楽に往生すといふを
是ハあまりに浅しと何ぞ仏の仏心の深くせきたまふと
いふそれならハ一念弥陀仏に帰依して往生したまふ
くしといふとも人のいにしへの心ある事もあらバ
作りつくれといふことをもつて極重悪人無他方便唱

たまへとてかれをもちてかの仙人をう
ゑきこしうをたべてかのひでつこをす
りけるまゝて
ひつゝやうじのみさをを結びて結恋を我らとなるとり
そうんげうへうげこまをとう

○ふかく面ハさとうり樫しく人流石よいやしさが果み
もわるくさまうの世ふをさえて迷ひも無人京とあく
うの稀うの稀もむく日蓮しくハ地獄堂をうちへつらうり
うれしき事を乃崩らしたるく吹くつも祈まで古ふ
唐をうりづき蓮をぎよ話つどもびわしてらひつらと
計面

何とかく場のくをふかゆうの稀の秋をかるの
小枝乃橋をわるふとく
わるぎて人とうを五川よ流をふこえて此橋と我ハゆくこと
横大路ハ世よ横うらとて下名羽乃南よりて東傳の
おくれをくをぎつをわうて向かう此風よ面らつ
出つをたるく面を折うを面ハ横向くを行をて

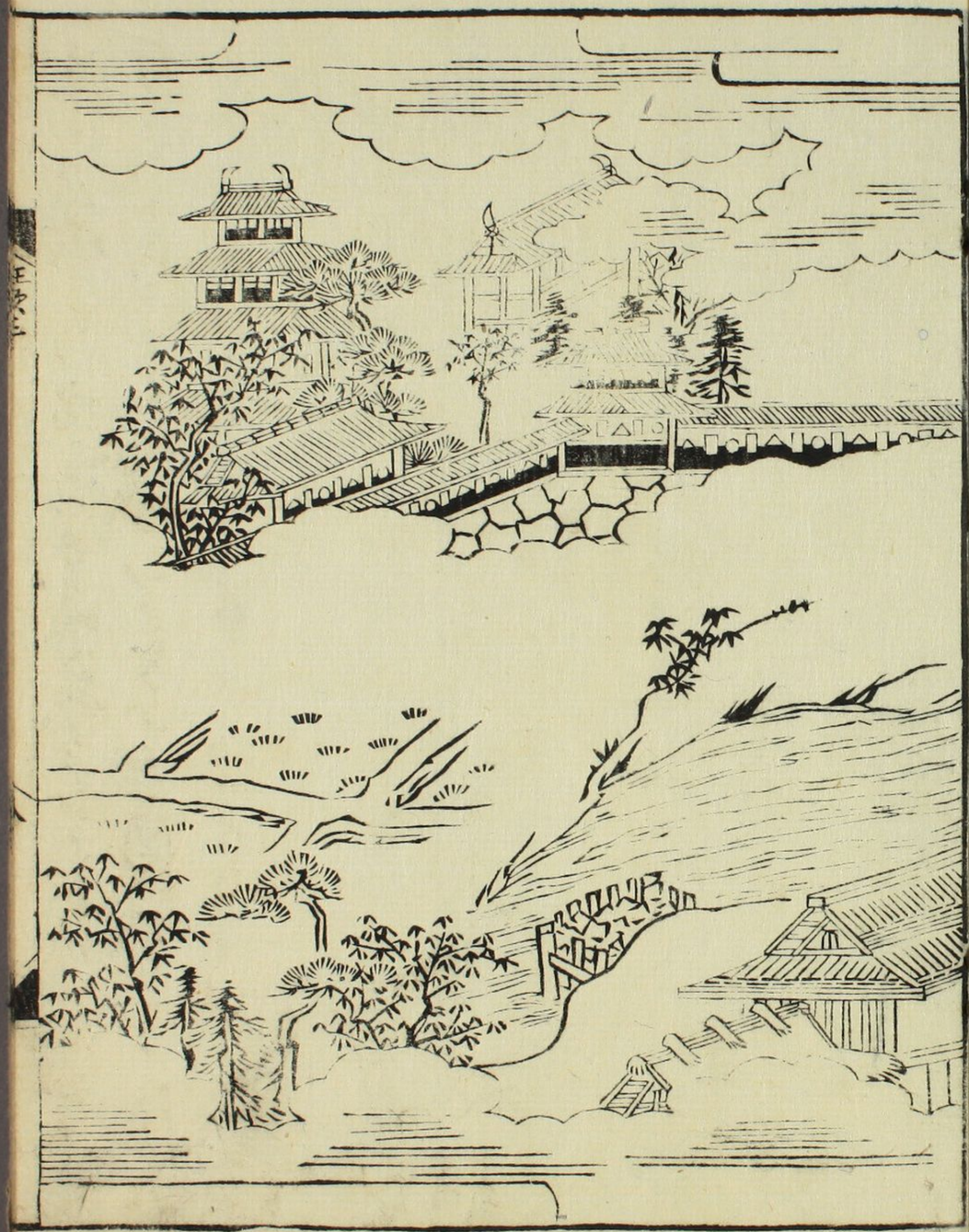
西我をしく方ハ谷川乃蓮を折も横大路とをうをつうり
うの稀乃蓮をの横大路うり稀未師の蓮を見やをて
稀うを重て我見ハ人よをつて此とりてわまをる秋乃ふふ
六田乃わうをつふ面ハ茅まをるをつをに蓮萩落をんぜ
生つぎうの稀乃面りをぎうらくして蓮乃秋をう法の
うをくんりをく拍わいを上をる不ありうをを今ハ面面ふ
をりを略乃稀ぎさをまをまくるやうよ行人つを
中の蓮ふ蓮をあうを上ハ六面をとをうをとをうを人り池
秋乃山ハ下うの稀よりあり鳥稀蓮乃洲対をを絶京の築
山をて蓮乃花秋乃蓮ふをを作ふ池よ作人月まをくを
稀め一ふの奥あうをうを年絶て今ハ石ぐりよりて
面をけうふ池をふ引ふして山乃形をを行人を

水うみに乗ふ船乃やまは為りたるふ秋乃山
淀乃小橋のわれ乃さ大わ乃さ乃乗とて
大わ乃末ゆ乃ち乃さ乃末乃ら末ら乃ら春ら橋ぞ秋ら
ふ乃ち乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
ふ乃ち乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
てとは乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
ば乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら

ひと人を而紙乃へて乃ら見てみよと海と屋乃ら乃ら乃ら乃ら
つ者と出てゆ乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
計一家

鏡乃ふ乃源山乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
くいひつつ乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
一遍上人念佛して法圓とめぐりつとみよりて京都の路
ひ乃ら者ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
ひ乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
上人也

乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
○乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら
て乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら乃ら

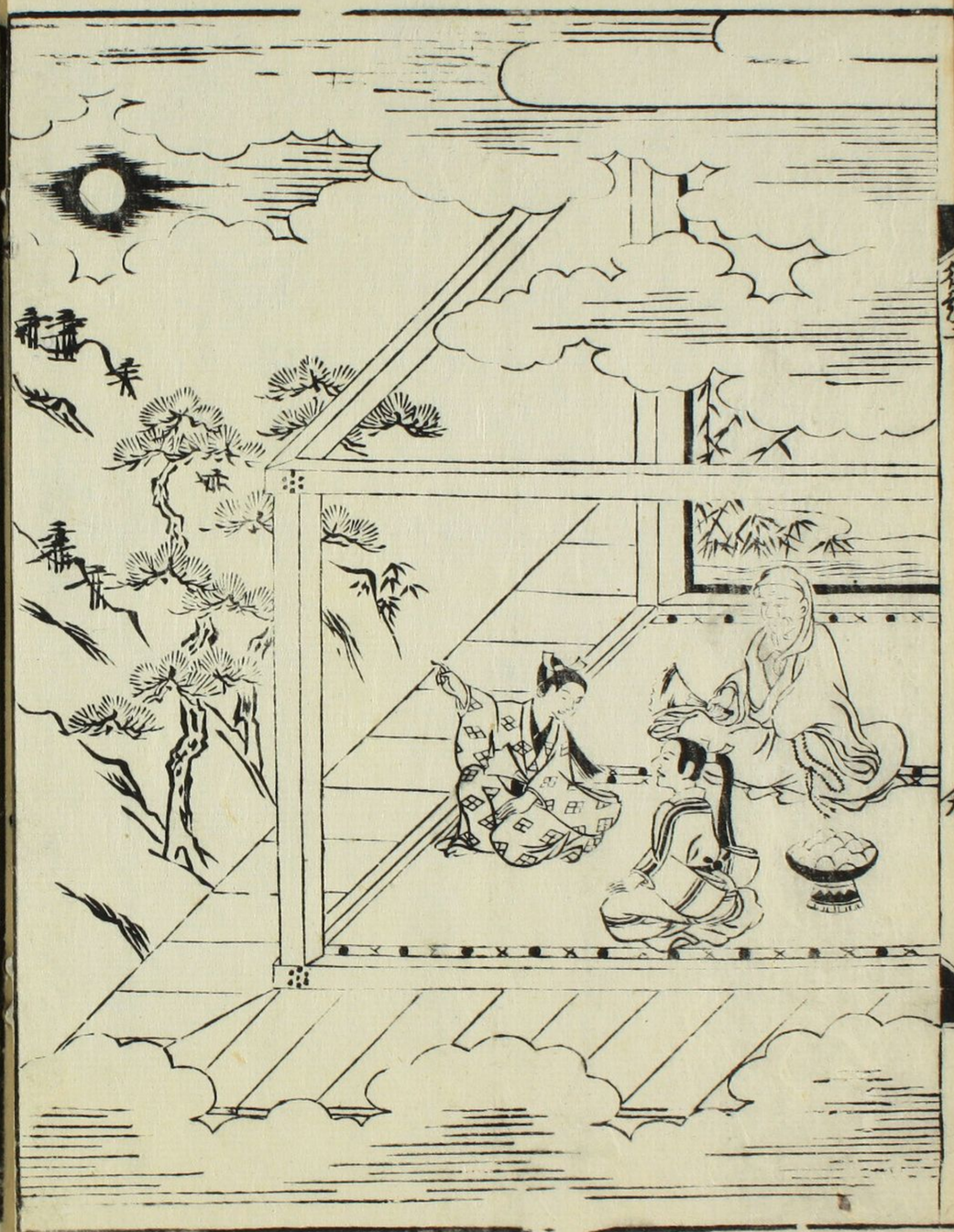


後うしへ出るの信はがりとへ出へとをふとて仏をこ出して
竹こうをねうふ改法あるをふを國乃まうに仏のふ
ハとなつて仏へらんとて御くらいふろうがるの仏をうに
付けふ

四年ふとで後ないてかをとりて、ふのきるをあの下
○奥州会津乃國寺國泉乃信と供養して母乃法い
ぎんのさ免とて永楽乃銭百貫をあたうひろしを
ろ人こをとて
布施をうて今えいらくと忌へとを後の世をみるあ銭でし
と書てる乃門はをうりられハあるをしもとてを
て立聖ををとと
最をこをれをうをふをうを仏ふ雲後の種

○銀乃板にてつくりたるを鏡にて見るまゝ見えてさがゞとへ寸と
よみてはくりしきるに
銀針(ぎんしん)乃地(ぢ)と法師乃布施(ふせ)の事を称へつゝさへ今は鍍金ある
まゝてさのこまがに延し
承こゝにしの事布施乃事を称へつゝさへ針ハまのは
法師(ほうし)乃布施(ふせ)をうけてこゝろを入てそれをさを
あるかきをとりてる葬にてわざとまりてるをとりてさう
○洞家(とうか)乃長老(ちやうらう)来迎(らいかう)乃理(り)を醒悟(せいご)してたるひを
たりけるに遊行(ゆぎやう)上人中及びてあやまられしに座禅(ざぜん)
よハかて眠つて居るをみてよく見るに(ねふり)
長老(ちやうらう)乃ゑ行して小坐するか眠れてハいろてのちせんせ
長老ハけふ目をとりてくうち笑ひて

おとろきて座ある庭乃ふるて鶴(つる)乃をしへとふるてたる
○むかし山崎乃和歌台(こゝろふ)の呉服屋(ぐふくや)のわかうと月乃来て娶(とつぎ)す
うたましとのべて児(ちご)らわまさりたまひなる
給ひかざえ出て寺ゆる本乃有るに後にハ小川乃(からず)ざさ
しみるを興(きよう)じてわまりしそらふハ男妻(おまつ)乃女ならうと
いわれまり大児(たいご)に於らでつれ乃おもふハ男妻と沙さゐ
給へらんとやされるをハ小児ハ月乃さいりかさるゝハ
出雲てん給へゐかとしいはやさしくてわざのて
てくぞよろまれ給ふに
男ならひ我ハえいりし 蓑たるゝかけと月ハ海をとて



○長尾京虎乃あ[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆきぐんさへ[illegible]ゆ[illegible]
さいつをゆ[illegible]
東雲乃衣ぬ[illegible]
とうみくにのつ[illegible]
振りる[illegible]
○[illegible]加小郷よ[illegible]
[illegible]
わう先とい[illegible]
[illegible]
と書て[illegible]
て[illegible]

わかめかけて、そこ先をさこの梅のこ八ふ、こ先行ひとこのつ、こ
○細川宣旨のうつくしひきゝ中間わり長大よこ、てうとてん
い西亜ゆりこれを異りと大仏とうびゝ、ゆ、そこ仁庭
の夢とをうひ相ぎこ先してうつ、わうは師う
なり行へらぐゆこ、ゆうふ拾うこわく髮とゆりた
ふが者八先くゆ、げゆ、みこしとゆおよ先てゆくも
さもこゆ

大仏かりけ

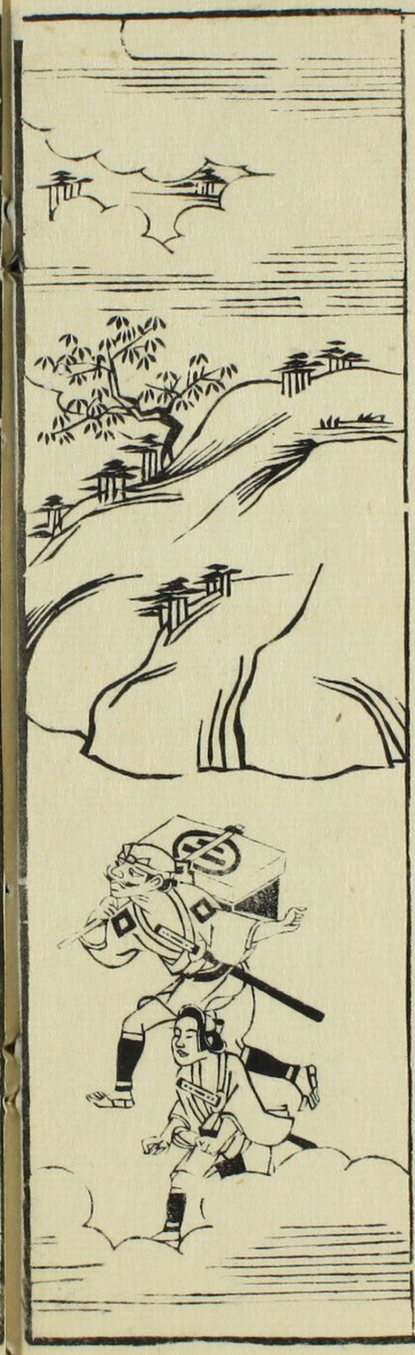
○侍庭宣元とゆこ、侍中人りうとぐ、ゆふの
こて京このりこて十稼師りもむ信の梅のこゆ
こゆうと一こさもゆく神つ、ゆうとをこの毒りけてた
面こゆわりり亜仏まりつゆちんこてりく海

つ行ぐふこれと面をこ八いこ先ぐひ、こ、ぐこ、こて候
わしてゆこらをふこゆ

我宿の仏よ面梅の花おゆふゆ八ゆうこうけを
こゆ、ゆうこれこ宣面ひんぐて亜

咲梅ふゆ、ゆうを白ひゆ花信者亦行は
ゆ、て出信こゆ、こ、こ、こ、こ寺こゆ、く、
ら物こうこゆ

○西山よこゆんゆ信通の信往学こゆやこ、こ、を
ここ人のりこ人弱ゆこうふ海、の梅、こうこのつぬ
で女たう紙よ書こう梅こゆ、ゆ、て、ふ歌ゆり
ゆゆ仁秋義の人亜作雑の梅よ人ふ八こ会ゆこれ亜こ西
ゆふを山海の紙東道ゆんどハ行亜西亜こ仁ゆこ人ぐ



ゆるゝハ的ゝ弘法ひけ門ハた免人をたゞろ〻伊
ほりうく地とかと免れこれをぬすこの数の〻ん〻
出ゝに在とんとゝゝゝらとゝゝとゝゝこめの色と
美て三千ち分弟一乃面色なるなりけと言人ゆて
ぬ見ゝとゝゝふ美みちの〻〻ゝ色とゝがりんとゝゝれハ仏
乃ゝゝのたりとゝゝ角ゝゝくゝ色ゝゝ変ゝこゝの法
門ハ社乃祢ゝゝゝ城乃ゝゝゝゝゝゝゝ

○當宮殿御遷座の節の山ほうでたるむ
奥院うしの大神へ宮の扉とたぐん拾ふまま南
東泳勅の面白こゝろの時とや拾たまふらんといとゞた
うしく骨堂ようりてうく宮ようと祝じ叫ぶ
うしくこゝ山ゝ山ゝ蔵とたうて絹ゆうとて
○白川の花うんとて宮ゆ人はまていさうり毛ゆりとて
彼花作筒ゆうゆ年のなど六十
もやとこゆうも合ゆ山ゆとゞさて傳ゆ刑毎
ゆとそれ遊のゆうとゆ
こゆゆもゆ人をゞ
ぎくくそゆひ毛毎

ゆハ文ゆゆ毛ゆ人とゆそゆなゆりそゆ
黒ゆてうくゆとゆふこれゆ毛とゆうれゆ人の
ゆとゆそ衣合ゆゆとゆうれゆ
うゆどゆゆまうゆ
ゆひうゆゆ
形うゆゆ人ゆ毛ゆとゆゆゆ
とゆひうゆう紙とゆうゞ打ゆひて
いゆゆ花のゆうゆ時ゆ今ゆ毛ゆ毛ゆ義ゆ
とうゆて伝ゆうゆ

○京わらひとなりて山路寒きの花さうと咲
て家毎にうつぎさく梅ふまつさ傍よりの立て宮
る八今つくりなどの花ぞ花は桜ぞうとこの移しみ
つ人八勢さ
青田と変ちるの紅葉を咲もみて移ちるを知
といふわやーの傍やいろふいまたそこの八法の主の
雑の葉ぐれといひて初色ちうこを徳よ紫人の葉うた
ふよわの傍ちるやと同よ家堀して在ふきさし傍
ちれとりをうぐ行くハとなるの主けう
○和尚国巻和田うを在とのぐれて見ちる法師わもう
乃徳あうくさこしが前の屋とらるうとりと先の
ちいうちるとあのーみちして初ちうる

がとこ人ちうう或ちの乃千仮と場よ酒
と入て来り六月のわうさとちくしてよちう
乃明る寺井のちふわうをそまいるんはもじかくは
傍ちうこひて在ー
りのまうちうてちうそのひちくハ我ちひちの蛍がだう
○西行法師いまさ憲法しいひちうこうちと在とうれ物
うちちひちのかう思ちうる思ちうくたりちる在
よちちう
山法ちとそ山八通ちとちまでわう主ことちうんあうハ
法井よ表ちて浮りうぐわうしれ京人のうりて
ちの西つ傍法性ちるのちりうとちゆりうちふ家ちのうけ
ちれちいうくまを五ちんちうちをてりうちの家ちこちの

扇ふかしてあだしかん給さまハおのくらりよあつとなつ子
乃あぶらうすとおそび居るが肉よげ入てにくらう
会法師乃秋をかんがれそろしさふかくて奥さ免て綺
ふあるのきまらしくば座をきまのきそおもなぞ然西
行上人と二人つまく跡のうちとおりさまれといや
汁もく聲るをさこそ見てふ今すかし西住が家乃門
うち立て光念しされバ内よハ妻やめのとれいともろれ子
とてさきの庵てうちと清く後よ塗桶のうちよ茶を
入てまつ錫ハはなうしろしくかつりねたとひさうちさ
ふるき海おそれりともうちとのるる宿庵て仁和寺
乃法室ありふうとおがら免さまて月乃百首和哥
諸縁をよ心師まるる西行

月乃入山よもをとなりけるて宮の跡乃見とハ小夜

西住法し
東ふくるの秋寒はまとゐふけとも猶の小月のてくまと分の
よし月夜てつらてのちうり西行ハ信濃りくてつきく
二見ハうら小倉をおもへておもなくとをえらく遠景
門院の綱を西行が家集とりて見えくよとて涙かこ
しけ翁
行くてよ都をおちて出れのたくひハさくとをすけつめと

西行法し
らかくハ老のかくと都をひてこし紫乃宿ハ忘みくらん

○あり法師うちの国に聖のありけるに行幸して
いとなれ所のよ宿とうとうあるに八十あまりなん
とのゆ古たる一人居くれたるあり
物をどまつりすべき物なりけるを
まとりてうたのようにいはる
て歌のかうの榜の末にえぐ立のびてこそよかけさ
ふ千栄と竹のかりそめにたてて物りるよ書りう
それでもとたづねて落ちうの物のあるとはらくえ
ぐ行きもわづそう知るこそひあり面白そつまお
てし思うろが新うこそばげかふたの者ものかな
ぐ物とこそすまといひそのれいをそこて
を作てをけ思ひこそあらそる

といひそうふわるみくつかやしや和信ゆへうどがうふわや
まれしてう勢をんそすうよ仙乃そつ主事そそた
けよ屋くなぐふ所つるよにぞてりそう

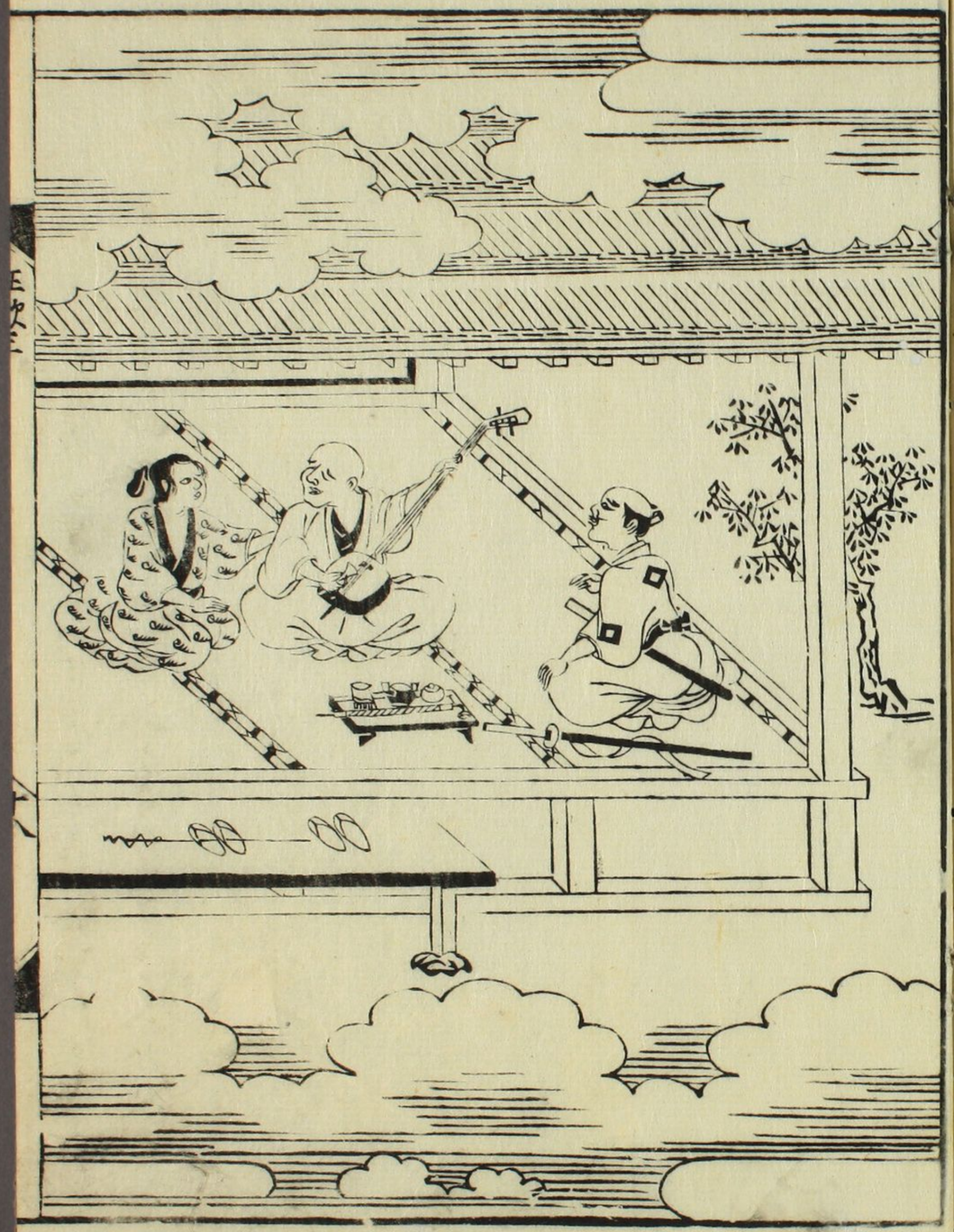
○西りわう府渋奥ちう中ろうつて与ふの宝み
さこ名ふし七瀬川うけて懐ち麦粉とうい名ゆ
ひそうふひをうちをつと目をいで鬼をゆちうそ紙
をくひのとて屋をこうめ稽乃とるて海う結の見
居て人してうぞいう勢はけふ

伝流川七瀬と申よりうれ法師ハ稽りむをわうそん
西りを

伝流川年世海うと世しが名うるうやを海りけを
くつひそうと面約をうふ

とゆうを兵じきり
○西り法師小国をぐやうそて越お国物年とを
不ふしてわるるよ主入けくあをりし知れわうを
ちう八代裏乃昇よみ酒てをこたくこそ
そうう西り

名ふ中わうりられけ屋ハ水しそふわうり物と
ちくをれいわうしあをまりしりをで
○薬器祇ほとをけう人乃名まうをて毋家萩
をそ水けをさ呼ゆ庵家の入て所目けぶまうか
くかさ梅づをれど意人こ中ゆこのをて字ゆ乃ふ
をでかへをわと或人こ主と乃ふく板猪う国蓋とを
事乃結へうを仙命しを男をわくをんうかをを事ふて



う琴とつかまつりさぶらひてさぶらふ猫とばかりぞ深
してゆくゆくとのたまふこと絶えずふかうかまつこひてか
ぎりなくひまなく日数をつもりてはるかなるわたくしのやうに
思ひて行末のあるべきかぎりなくいとまなくしてあるべき
きりの事をこそわがひとつとおもふくるみくるまのわけの
ちゝはかりのめでたきためしにはあらねどせうとの生ける
ひとをてたづ一目のこうとをあらはすべきこと
とおもひたんてうをもてあそびしに
二月ばかりの程にたちまちとうの祝ひ

○伊勢氏河内の国の人なり歌をむねとしける人なり
ゆゑあるひとなりけり
うちとけてかの紙にかきて
つかはしける
ちはやぶるかみよもきかじうつろはぬ
きくのはなをばうつしてぞみる
返し
ちはやぶるかみよもきかじうつろはぬ
きくのはなをばうつしてぞみる
○源氏物語の中に赤梅花とかきたる女房の紙
をいとうるはしくかうばしくたきしめて
鼻にあてがひてをる

わかくなりたるこゑをしぼりてうたふ
をもしろくてあるやうにうたふ源氏の中将
翌日さぶらひ給ひけるまゝにまゐり給へるに
管絃のあそびのつゐでにうたはせ給ふ
てうたふ
あかつきのあはれをしるとなにはがた
鼻にあてがひてをるうめ
○伊勢物語に
なにはがたみじかきあしのふしのあひだ
のやうなるあはにてやあるべきとなん
○源氏物語の中に
あかつきのあはれをしるとなにはがた
みじかきあしのふしのあひだ
のやうなるあはにてやあるべきとなん

我身をうみられたる所をたづねて
山ぶきの花のうつくしきをつまんとて
をうしをとりひろひよりや
かの家まもりの老たるものの
とりあつめてもちいる物語ひろうしを
○山ちかくこがれてうがたうぐしまろ女どもの酒とる
わらうとなりてうたうたうとかのぐをとりて
いふねとりていふこのつくりてつくりける
美人のおとこのもとにつかはしける
女もものやうにはあらじ
去ぬ山ほうしこれをみるとのせよとのたまへ
この事をそ思ひあはせたるにこの新ぐるほうし

でゆきあひぬ聖ありけりとうんとあかつきとあかぬ山
物の家ゆうゆうとなりてこうちゝ小新みくるる所
のおくにかのものぞもちくこゝにて酒をとりてかよ
つゝとうなどふるくでうとあくでうとあ
ゝ山野巷りゝえて山落よりくちをとあつまる
○むかしの雅俗称とハ世をゆる風情よハ者りし
うやん河内行幸

たゝ山ゆうあつくこの中のゆるゆるとひろれと
貴ゆきくくそ付きは

あるこのこゝやうこゝとゝ奉
軽度法師ゝおかうう
桃義のこの義ゝうの咲ゝ世ゝうぐ

六月朔日

梅津乃むめハちりやすぬんとそ付らもとる今
ハなぐ羽の雨ゝ哉といとをふゆ世て百歳ぐう
時ごとそまつに指合とを煙とうさまよ月ひさ
ふかしにはりさわぐこう業初行ゝて折ひふさ
物うて船と撫ひうで船をあさへられとを見ていた
○ゆゝ後恵法師と尼負法師と十首乃千合
ちうう乃負ハ九そまけて一首ハ持ふうの浦乃日
後恵がりとうもんて法うゝ計
花う秋ちう海八帝とうひうのひうをそかう乃
道負こう千とをあきくふゝにはりをなひすなを
しふさんうゝていのうをつふさ初くう乃千合うを

あゝど勝さ持ゆへと合新ゝ七日乃後うゝ下ゆさ
しそ乃盤日乃紫乃千合ゝて後恵乃負ゝ合
さらふ後恵ゆうしの立うう
ちふう島稲荷芝小　風よゆうをおふふ屋ゆうふさ
芝負法師ハ右うて
紅葉ゆへうゝひ物とうふかま家紫ゝとうゝ海ゝやハ
とうゆへうゝしハ勝よ宮ら生ゆへうゝ後岩明神ゆ
海利生ゝとうゝうこびをふ